

幼児教育に於ける養護と鍛練 (三)

文部省督學官 加藤 恂 二 一 郎

(五) 鍛練

これからの幼児は單に病氣をしないでお上品におこなしいさいふだけでは充分ではありません。もつゝ積極的に元氣のある、一寸位無理をしてもからだに支障も生ぜず、すゝんで身心の苦痛をもちつゝ我慢して、がんばる様な氣力も體力もあるものにそだてる必要であります。さうしなければ將來お國のお役にたつ様なものにはなれません。

從來の教育では、一個の人間として完全なものをそだてあげるさいふこを目標にいたしましたために、その兒童のもつてゐる個性を圓滿に發達せしめるさいふこに重點がおかれ、そのためになるべく個性を殺さぬ様に、その一人一人をその獨自なものにしてゆかうさいふ考が強かつたので、特に鍛鍊さいふ様なこが問題として浮びあがらなかつたのであります。

しかし乍ら眞に一個の日本人として將來お國のお役にたつものをつくつて行かうとするには、むしろ個性をのば

すさいふこよりも、——勿論このこも大切なこではあります——むしろこの究極の共通な目標にむかつて幼児を鍛へるこが必要になつてくるのであります。即ちすべての幼児を 皇國の道に歸一せしむる様な教育が要求せられるのであります。

最近まではよく「叱らずにそだてる教育」こか、子供は放つておく方がいゝのだこか、いふ様なこが、教育者や父兄の口から漏れたものであります。さういふ風にして育てられた兒童は大きくなつて我儘になり、無氣力になり、學校へ行つても先生の命をきゝません。吐りますこ腹をたてます。こんなのが工場にゆき、會社にはいり、役人になりますこ、責任感もなく、自己反省も乏しく、服従心もなく、こかく我儘で、利己的で、始末におへないものが出來あがります。

こういふ意味におきまして、教育でも鍊成さいふこが大切になつてきました。勿論幼児のこでありますから、

あまりのゆき過ぎはいけません、やはりこの心構で保育をしてゆくことが必要であります。

教育審議會の答申に「幼児ノ保育ニ付テハ特ニ其ノ保健並ニ躰ヲ重視シテ之ガ刷新ヲ圖ルコト」にありますが、この躰に御承知を存じますが、この躰にふ様なことにつきましても御注意を願ひたいのであります。

我國は明治のはじめまではまことに禮儀の正しい國からであつたのであります。わたくしは松江にゐたところのあるラフカデオヘン、小泉八雲さんのかゝれたものを讀みますが、當時の日本人の禮儀正しいことに感心して居られるくだけりがあります。これが近年になつてはすつかりこはれてしまひました。また最近はいろく努力されてきましたのでいくらかよくなりつゝはありますが仲々充分は云へません。こんなことは大きくなつてからは駄目でありまして幼児の頃から鍊成しておかねばなりません。簡單なことであります。先生方が幼児に何かおつしやつたらハイ返事をするところがまだ行はれてるません。この間も東京市内の幼稚園を二三拜見したのでありますが、先生がお呼びになつても知らん顔をしてゐるのがあります。それで話をするのをきいてゐるさ、なか／＼しつかりしてゐて、返事が出来ないほぎのぼんやりした幼児ではありません。これは是非必ず

「ハイ」返事をする様に躰をしていたゞきたいのであります。

それから、大切なことは、自分の身の廻りのことはなるべく自分でするさいふ習慣をつけさせること、例へば着物を脱いだり着たり、手を洗つたり、女の子なら髪をくしけづること、こんなことを他人にしてみらふ習慣がついては依頼心ばかり發達して駄目であります。

さもなくば従來の幼児教育はすこし幼児を甘やかし過ぎたのではないかと思ふのであります。勿論、幼稚園によつては厳しすぎるころもあり、幼児によつては厳しくやつてはかへつて悪い結果をきたす様なものもありますから、具體的にはそれぞれ適切な方法が必要ですが、概括して云へばさうも甘やかす方が多かつた。これは我國の保育思潮がさうさせたのではなかつたかと思ふのであります。また幼児の父兄の要求がさうであつたと思ひます。

そこで近頃はすゝんで積極的な鍛鍊が要求される次第であります。

鍛鍊はある意味に於て苦痛が伴ひます。しかし苦痛を與へこれを堪へ忍ぶさいふ習慣をつけることも一つの教育であります。或は従來の教育では忘れられてゐたが實に大切な教育であると思ふのであります。

我國の教育の傳統におきましては、この辛苦さいふこと

が實に重んじられておるのであります。先哲のかゝれたものを見ましても、みなこの辛苦さいふこを大切に扱つてはれてゐます。艱難なんぢを玉にすこ云ひ、梅は寒苦を経て清香を發すさいふ様な格言は我國に澤山あるのであります。

かの明治維新の先驅者であるところの橋本景岳先生が、安政六年、小塚原で刑死をせげられました際、懐中から一尺あまりの棒切れがでゝきたのであります。役人共はそれが何に使用せられたものであるか知らう筈はなく、こもかく先生の御遺物として福井藩の橋本家へ送りこゞけたのであります。ところが先生の母上がその棒切れを見られた時ハラハラと落涙せられました。即ちこの棒切れは先生が七歳位の頃、吉田東篁先生の塾に通つて勉強せられて居つたのですが、塾から歸つてこられますと、母上が復習を命ぜられ、針仕事をして居られます母上の前に端座して、論語や大學さいふ様な書物をすらくと讀みくだされるのであります。もし少しでも間違へたり、姿勢をくづれたりすると、母上は膝元においてある一尺ばかりの棒切れをこつてピシリと幼き景岳先生の肩をうたれ、その打ち方がまた尋常一様ではなかつたさうであります。先生は大きくなられましてからもこの母上にたゞかれました棒切を大切にふまこころに入れて持つてあるかれ、刑死に至る瞬間までも

放されなかつたのであります。

わたくしはよくかゝる先哲のお話を學生にきかせるのであります。多くの者は感心するのでありますが中には、先生、それは選ばれた方々のお話でありまして、吾々凡人は到底そんな立派な方々の様にはなれさうにありません。わたくし共は平凡な生活さへ送ればよいのでさういふ努力はこても出来ませんさいふものがあります。しかし、お前はそれでほんこゝに自分の云つてゐるこゝが立派なこゝと思ふか尋ねますと、頭をかいて實は恥しいこゝだと思ひますが申すのであります。

これは西郷南州翁がその遺訓の中で「聖賢にならんこ欲する志なく、古人の事跡をみて、こても及ばぬさいふ様な心ならば戦に臨みて逃るより猶卑怯なり」と申されてゐる通りであります。われ／＼が習字を勉強するのに有名な書家の手本はこても及ばぬと云つてお隣の魚屋のおぢさんの手本で習字を勉強すると云つたらおかしいではありませんか。特に精神の問題に於ては先哲をめぐしても漸く普通の域までしか到るこゝが出来ません。いはんやはじめから平凡人をめざしてゐては到底、平凡人になるこゝさへ出来ません。

この間、文部省へ平出大佐がお見えになりました。大東亞戦争に於ける海軍の大戦果のかげにかくれた、いろ／＼

海軍のそれまでに至る準備についてお話がありました。その中に海軍の長年月にわたる猛訓練のお話がありました。その内容は或は機密にわたる點もあらうに存ぜられませんが、こゝでお傳へいたしません。こんな猛訓練は外國人にはとても出来ないといふことでありました。又大分以前のこゝ、あまりの猛訓練に、遂に相當の犠牲のあつたこゝがありました時、駐日フランス武官が我が海軍當局へ見舞に來られて「ほんまにお氣の毒なこゝで御座いました」云申された後、「實を申せば、お祝ひ致したい位である。なぜならばこれこそ日本の強い立派な證據であります。若しフランスでこれに近い猛訓練なきしよものなら、議會の問題になる。人民の海軍攻撃の聲が湧き立つ、又海軍を志望するものがなくなつてしまふにきまつてゐます。こゝろが日本の方々は一致して皇國のためを念じて居り、從つて犠牲になつた人々に對しては心から哀悼せられても、かゝる猛訓練、生命懸けの努力を感謝の心で眺めてゐられるからであります」云はれたこのこゝろであります。

日本人がかゝる猛訓練に堪へてゆくさいふこゝろは、勿論大稜威の致すこゝろであります。然し、また考へて見ますと、この盡忠の赤心を貫き通すこゝの出来る土臺を、吾々は傳統的に培つて來てもゐたのであります。しかしこの大

切な素質は從來の歐米思想によつて次第に棄てられてきまして、今やまさに消滅しきうになつて、この大東亞戰爭によつて漸くまたその價値を再發見せられる様になつたものなのであります。

即ちそれが辛苦の教育であります。古い傳統の生活の中に残つてゐるものを見ればわかるのであります。即ち學校では甘やかされ、のんびりな教育せられつゝある間に、丁稚さか徒弟さかいふ職業教育をうけてゐるものは昔乍らに朝早くから夜おそくまで極めて嚴格な躰のこゝに訓練せられてゐたのであります。或は能や歌舞伎の子役の教育を調べて見てもわかりますが、凡てが同じ精神であります。更にすゝんで中世に於ける武士の教育、僧堂の小僧の教育を見れば、それが如何に嚴格な鍛鍊主義の教育であつたかわかるのであります。

尙、一步さかのばれば、これは具案的な教育ではありませぬけれども、吾々の農民が今も昔も捲まず撓まず、人間の力でさうにもならない自然の諸影響を闘ひつゝ刻苦勗勵して祖先傳來の田畑を守り育て、行く生活は、そのまゝに辛苦の教育になつてゐるのであります。そしてこの精神、この生活態度が鍛鍊の教育を産み出す有力な下地になつてゐることも云へるであります。

かゝる傳統を持つてゐる我國なればこそ、現下の大戰爭

に於て驚異的の大戦果をあげるこゝが出来たのであります。わたくし共は近代の我國の學校の普及と共に所謂封建的な遺習を棄て去らうとしたかゝる辛苦の教育といふものについて今や新しい意義をもつて見なほさねばならぬこゝになつたと思ふのであります。

以上の様な意味に於て三つ子の魂百までといふ幼児教育に於てもこの鍛鍊といふこゝを考へていたゞきたいと思ひます。

しかし大切なこゝはこの鍛鍊においても、はきちがひや行過ぎはいけないのであります。また幼児のこゝでありますから特に十分なる研究を準備し計畫が必要であります。ある幼稚園で鍛鍊を稱して風の吹く日に幼児を遠足につれだしてかへつてきます園児の口の中には砂がはいつており、中には發熱したものさへあつたといふこゝをききました、これなきは準備も足らず計畫もなく、只幼少なものに突然無理をさせたといふこゝで、決して保育でも教育でもありません。

幼児は將來 陛下のお役に立つ大切な國の寶であります。大東亞共榮圏の建設も、今の幼児がやつてくれるものさ考へねばなりません。それであるからこそ前にのべました東郷元帥のお母様の様にその枕上をあるかないで足もこゝをあるく位に大切にするのであります。しかしまたそれで

あるからこそ橋本景岳先生のお母様の様に棒切れで折檻するのであります。養護も鍛鍊も、この根本から出れば間違ひはありません。皆さんはそれらゝ必要な教育をうけられ幼児の保育に御経験のある方ばかりであります。具體的な工夫はそれらゝこの根本さへつかまへられゝば十分おできになるで存じますので鍛鍊についてはこれで終ります。

(六) 幼稚園、保育所の社會教育的機能發揮について、

吉田松蔭先生の有名な松下村塾は、その存在によつてその附近の村の風儀を改めさせて立派なものにしたといふこゝはあまりにも知られてゐます。たゞへば松下村塾の年少者が煙草を吸ふので先生が戒められた。するにこれを見た村塾の弟子は皆煙草をやめる。これを聞き傳へて附近の村の青年達がみんな煙草を吸ふのをやめてしまつたのであります。

學校の存在も、左様にあつてほしいと思ふのであります。學校ができてさうも村の青年が學生の眞似をして風儀がわるくなつて困りますといふ様なこゝになつては大變であります。

さう云ふ意味におきまして幼稚園、保育所があるこゝろでは、附近の家庭の幼児保育が美事にならなくてはなりません。

ん。幼稚園や保育所はそれだけで附近から遊離してしまつてはその力が十分には申されません。幼稚園、保育所における間だけではなく、家庭へかへつてからも立派な保育が行はれる様に心をくばつていたゞきたいのであります。すゝんでは幼稚園や保育所に來ない幼児についても美事な保育が行はれる様にありたいのであります。

尙これに關聯して申し上げたいことは田舎では田舎らしい保育をやつていたゞきたいといふことでもあります。現代は何ごも都會模倣が流行しておりますので教育もまた都會模倣が多いのであります。わたくし共各府縣の學校を視察してあるきませんが、一ばん感ずることは田舎ではその附近の環境にびつたりあつた田舎らしい教育が何故行はれないのであらうといふことでもあります。みんな都會の學校、それも東京の學校の模倣がみられるのであります。

田舎では田舎にある材料で何さかなるのであります。田舎は、教育に一番大切な自然にかこまれてゐるのであります。都會より却つて恵まれてゐることも申せます。

又、すべてのことに對して、かようにしてこそ、田舎では村の人のつながりもよくついで行くのであります。さうぞさういふ點にも御注意願ひたいのであります。

(七) 空襲時の注意

これからは戦線も銃後も區別がないのであります。互にその覺悟で働くことが當然であります。今後、時局の進展につれてまた空襲があることも覺悟いたさねばなりません。

空襲に際して幼児を如何にすべきかは、それ〴〵十分の御用意があることゝ信じますが、平常から計畫をし、準備をしておくことが必要であります。

只、わたくしが最後にお願ひいたしておくことは萬一の場合には決して見苦しい態度をこつて下さるなといふことでもあります。わたくしは大阪に居りました際、學校を視察いたしますと、よく校長さんが校庭の隅にある墓標の前に案内されることがありました。これは先年近畿に大風水害がありました際、校舎がたほれ、先生が生徒を救はうとして、生徒をかばひ乍ら壓死をされたその記念の墓標であつたのです。

これらの先生達の魂は今、大阪城のほそりに立派な教育塔がたてられ、その中に祭られてありますが、誠に有難いことでもあります。

皆さんのお仕事は、まことに大切な、しかも意義深いものであります。さうぞ、この尊いお仕事は萬一の場合には死をもつてやりあげていたゞきたいと念願いたす次第であります。(終)